



土木学会第54回通常総会は、昭和35年に早稲田大学で開かれて以来8年ぶりに東京市ヶ谷の私学会館講堂で開催された。

従来、毎年5月末に各支部をまわっていた年次学術講演会は、年々その発表論文数が増大する一方で、運営に検討が加えられた結果、今年から総会は毎年5月に東京で、年次学術講演会以外の行事を加えて「昭和〇〇年度全国大会」として9～10月に各支部を巡回することになり43年度は10月11日より3日間、名古屋市において開かれることになっている。

したがって、今年の総会は新しい運営方針のもとに開かれた東京における最初の総会ということになる。

5月28日定刻13時をやや過ぎ富樫会長が議長席につき、羽田専務理事(司会)より、出席会員1369名(委仕状を含む)をもって定足数1268名(会員数25351名の1/20)を越えたので総会が成立する旨の報告があり、ここに第54回通常総会の開会を宣し議事に入りつぎの議案が承認され別掲の報告があった。

議案 1. 昭和42年度事業報告

(自昭和42年4月1日
至昭和43年3月31日)

広瀬理事より説明があり承認された。

I. 理事・監事の選挙(昭和42年5月12日)

	退任	留任	新任
会長	篠原 武司君		富樫 凱一君
副会長	畑谷 正実君 水野 高明君	酒井 忠明君 最上 武雄君	仁杉 巖君 松見 三郎君
専務理事	羽田 巖君		羽田 巖君
理事	青木 康夫君 内林 達一君 久保慶三郎君 近藤市三郎君 佐藤 友光君 多谷 虎男君 友田 清三君 成岡 昌夫君 藤田 博愛君 町田 利武君 耳野 慎君 村上 正君 森垣 常夫君	栗田 龜造君 飯吉 精一君 神田九思男君 米谷 栄二君 堺 毅君 広瀬 可一君 森本 茂男君 横戸 実君 横道 英雄君 吉田 登君 渡辺 隆二君	伊藤 富雄君 石井 興良君 石橋 多聞君 市原 松平君 岩崎 敏夫君 川崎 敏視君 倉橋 力雄君 篠原 謹爾君 高石 康君 高橋 浩二君 福山真三郎君 村田 清逸君 渡辺 豊君 小池 蒼君
監事	井関 正雄君	橘 好茂君	

II. 役員の登記

理事の変更登記 昭和42年8月18日

III. 通常総会および役員会

(1) 通常総会(42.5.26, 広島市広島銀行本店会議室)

出席者: 1376名(うち委任状1255名を含む)

会員数 23902名

定足数 1195名以上

議案:

- | | |
|---------------|----|
| 1) 昭和41年度事業報告 | 承認 |
| 2) 昭和41年度決算報告 | 承認 |
| 3) 名誉会員の推挙 | 承認 |

内林 達一君
大坪喜久太郎君
福田 武雄君
宮本 保君

報告:

評議員会の決議事項

- | | |
|----------------------|----|
| 1) 第52回通常総会提出議案, その他 | |
| 41.5.12 定例評議員会 | 可決 |
| 2) 昭和42年度事業計画および予算 | |
| 42.3.29 定例評議員会 | 可決 |

表彰:

1) 土木学会賞の授与

- 功績賞: 1. 田淵 寿郎君
1. 青木 楠男君
- 技術賞: 1. 日本道路公団
- 論文賞: 1. 小松 定夫君・中井 博君
- 論文奨励賞: 1. 佐藤 吉彦君
1. 首藤 伸夫君
1. 柴田 徹君
- 吉田賞: 1. 丸安 隆和君・小林 一輔君
阪本 好史君
1. 松本 嘉司君

田中賞:

(1) 論文部門

1. 平井 敦君・岡内 功君・
宮田 利雄君

(2) 作品部門

1. 天門橋(日本道路公団)
1. 目黒架道橋(首都高速道路公団)

2) 吉田研究奨励金の授与

1. 堀井 修身君・関 博君
1. 尾崎 諤君
1. 徳田 弘君
1. 小林 和夫君
1. 山崎 淳君
1. 山本 泰彦君
1. 朝倉 肇君・多田 信幸君

新任理事および監事の紹介

前掲省略

(2) 評議員会

1) 定例(42.5.16)

- | | |
|------------------|----|
| (1) 第53回通常総会提出議案 | 可決 |
|------------------|----|

前掲省略

- | | |
|----------|----|
| (2) 基金繰入 | 可決 |
|----------|----|

- | | |
|---------------------|----|
| (3) 昭和42年新役員選挙の結果報告 | 了承 |
|---------------------|----|

前掲省略

2) 定例(43.3.27)

- (1) 昭和 43 年度事業計画 可 決
別 途 掲 載
- (2) 昭和 43 年度予算 可 決
別 途 掲 載
- (3) 理 事 会
定 例：昭和 42 年 4 月から昭和 43 年 3 月まで 12 回
(1) 協議事項 84 件
(2) 報告事項 42 件
- (4) 支 部 幹 事 長 会 議 (42.8.22)
(1) 会員の増強対策について
(2) 総会と全国大会について

IV. 各種委員会

(1) 表彰委員会

委員 長 富樫 凱一君 副委員 長 酒井 忠明君
功績賞主査 飯吉 精一君 技術賞主査 高橋 浩二君
外に委員および幹事 25 名

1) 委員会 3 回, 主査幹事会 2 回, 2) 功績賞および技術賞の選考。

(2) 論文賞選考委員会

委員 長 岡本 舜三君 副委員 長 西村 俊夫君
第 1 部門主査 河野 通之君 第 2 部門主査 永井 莊七郎君
第 3 部門主査 福岡 正己君 第 4 部門主査 米谷 栄二君
外に委員および幹事 23 名

1) 委員会 3 回, 主査幹事会 2 回, 2) 論文賞および論文奨励賞の選考。

(3) 吉田賞選考委員会

委員 長 篠原 武司君 副委員 長 国分 正胤君
外に委員および幹事 21 名

1) 委員会 3 回, 幹事会 1 回, 2) 吉田賞および吉田研究奨励金被授与者の選考。

(4) 田中賞選考委員会

委員 長 福田 武雄君 副委員 長 平井 敦君
外に委員および幹事 17 名

1) 委員会 2 回, 2) 田中賞(論文・作品両部門)の選考。

(5) 会誌編集委員会

委員 長 増岡 康治君
外に委員および幹事 41 名

1) 委員会 6 回, 小委員会 12 回, 打合せ 4 回, 2) 土木学会誌 52 巻 5 号～53 巻 4 号, 12 冊 発行(登載内容: 論説 10, 報告 40, 解説 4, 特集記事 5, 資料 5, 寄書 12, 話のひろば 5, マンスリートピックス 12, 講座 13, ニュース 68, 豆知識 7, 書評 7, 学生欄 4, その他論文紹介, 文献抄録, 同目録等), 3) 年間発行総ページ数: 1906 ページ, 4) 年間発行総部数: 270800 部。

(5-1) 書評小委員会

委員 長 新谷 洋二君
外に委員 8 名

1) 委員会 8 回, 2) 国内の土木系出版物の書評を行ない会誌に順次掲載。

(6) 論文集編集委員会

委員 長 西村 俊夫君 副委員 長 嶋 祐之君
第 1 部会長 西村 俊夫君 第 2 部会長 嶋 祐之君
第 3 部会長 山口 柏樹君 第 4 部会長 神山 一君
外に委員および幹事 45 名

1) 委員会 2 回, 部会長会 6 回, 部会 22 回, 理事・部会長打合せ 1 回, 2) 論文集 140 号～151 号 12 冊 発行,

3) 年間発行総ページ数: 715 ページ(内討議 25 ページ, 研究ノート 8 ページ)別に英文要旨 122 ページ, 4) 年間発行総部数: 62500 部。

(7) 学術講演連絡委員会

委員 長 久保慶三郎君
外に委員および幹事 14 名

1) 委員会 3 回, 2) 第 22 回年次学術講演会(42.5.27～28 広島市)開催に協力, 3) 夏期講習会(42.8.3～4 東京都)開催に協力, 4) 学会, 各種講演会, 講習会に協力, 5) 関係団体の共催等に協力, 6) 土木学会全国大会(43.10.11～15 名古屋)開催に協力。

(8) 海外連絡委員会

委員 長 新井 義輔君
外に委員および幹事 15 名

1) 委員会 3 回, 幹事会 3 回, 2) 英文年報(Civil Engineering in Japan '67)を編集出版し, '68 年出版準備, 3) わが国の土木技術の PR。

(9) 出版企画委員会

委員 長 春日屋伸昌君 副委員 長 堺 毅君
外に委員および幹事 21 名

1) 委員会 4 回, 幹事会 4 回, 懇談会 1 回, 2) 学会出版物および監修出版物の企画管理調整, 3) 測定編集小委員会の設置, 4) 42 年度中の主な刊行物はつぎのとおり: 水理実験指導書・土木製図基準(改訂版)・コンクリート標準示方書・コンクリート標準示方書解説・コンクリート・ライブラリー No. 16～19 号・工事報告「天草五橋」・昭和 42 年度夏期講習会資料・Civil Engineering in Japan '67・土木年鑑 '68・第 14 回海岸工学講演会講演集・第 2 回土木計画学シンポジウムテキスト・第 12 回水理講演会講演集・Coastal Engineering in Japan Vol. 10・橋 1966—1967

(9-1) 測定編集小委員会

委員 長 高田 孝信君
外に委員および幹事 15 名

1) 委員会 1, 幹事会 1 回, 打合せ 2 回, 2) 「測定」出版のため執筆。

(10) 文献調査委員会

委員 長 松本 嘉司君
外に委員および幹事 28 名

1) 委員会 11 回, 2) 会誌 52 巻 5 号～53 巻 4 号に文献抄録 57 件, 92 ページ, 文献目録 2625 件 49 ページ 登載, 3) 内外文献よりみた展望解説記事 3 編を会誌に登載。

(11) 土木用語委員会

委員 長 福田 武雄君
外に委員および幹事 12 名

1) 委員会 1 回, 2) 土木用語辞典(技報堂, コロナ社, 共同出版)出版に協力, 3) 土木用語辞典小委員会の設置, 4) 土木における専門用語の調査検討。

(11-1) 土木用語辞典小委員会

委員 長 星 埜 和君
外に委員および幹事 22 名

1) 委員会 1 回, 2) 土木用語辞典について学会監修という立場からの内容校閲。

(12) 土木図書館運営委員会

委員 長 森 茂君
外に委員および幹事 18 名

1) 委員会6回, 幹事会6回, 打合せ2回, 2) 図書館備付図書決定, 3) 資料の収集, 4) フィルムライブラリーの充実, 5) 視聴覚教育委員会(仮称)の設置準備, 6) 土木図書館蔵書目録の刊行, 7) 会誌に「図書館だより」を掲載し, 図書館をPR。

(13) 大学土木教育委員会

委員長 林 泰造 君

外に委員および幹事 30名

1) 委員会3回, 幹事会7回, 打合せ5回, 2) 大学土木教育に関する実情の調査研究, 3) 大学土木教育に関するアンケートの実施, まとめ, 4) 大学卒業生の量的需要に関するアンケートの実施, まとめ, 5) 第2回大学土木教育に関するシンポジウム開催を計画, 6) 日本土木史「土木教育史」執筆に協力, 7) 土木年鑑(1968)「教育および技術」執筆に協力。

(14) 高校土木教育研究委員会

委員長 筋内 寛治 君

外に委員および幹事 18名

1) 委員会2回, 幹事会2回, 分科会および打合せ10数回, 2) 土質, 土木材料, 実験指導書の改訂作業, 3) 夏期講習会(42.8.2~4 東京都)を開催, 4) 測量実習指導書出版のための執筆, 編集, 5) 高校土木教育白書出版のための調査および執筆準備, 6) 構造実験指導書の編集準備, 7) 学習指導要領の検討, 8) 高校における土木教育の情報交換とその検討。

(15) 水理委員会

委員長 石原藤次郎 君 副委員長 林 泰造 君

外に委員および幹事 48名

1) 委員会2回, 幹事会4回, 2) 第12回水理講演会(43.2.9~10 東京都)を開催し, 講演集を刊行, 3) 第4回水工学に関する夏期研修会(42.7.26~8.3 名古屋)を開催し, 講演集を刊行, 4) 国際水理学会(I.A.H.R)総会, その他の報告会(43.1.25 東京都)を開催, 5) 最近の河川災害調査に関するシンポジウム(43.2.10 東京都)開催を後援, 6) 水理学の長期研究計画の検討, 7) 水理学研究の現況を会誌(43年3月号)に掲載, 8) 水理公式集改訂につき検討, 9) 国際水理学会に協力ならびに第13回国際水理学会会議(1969.8.31~9.5 京都市)開催に協力, 10) 混相流シンポジウム(42.11.18 東京都)開催に協力。

(15-1) 水文学小委員会

委員長 井口 昌平 君

外に委員 18名

1) 水文学に関する調査研究, 2) 国際水文学10カ年計画に協力。

(15-2) 水理公式集改訂小委員会

委員長 横田 周平 君

外に委員および幹事 9名

1) 委員会2回, 2) 水理公式集改訂準備中。

(16) 海岸工学委員会

委員長 本間 仁 君

外に委員 34名

1) 委員会2回, 2) 第14回海岸工学講演会(42.10.19~20 横浜市)を開催し, 講演集を刊行, 同時に見学会を実施, 3) Coastal Engineering in Japan Vol. 10 を刊行, 同 Vol. 11 を編集, 4) 国際海岸工学会議に協力, 5) 国際水理学会会議に協力, 6) 第4回水工学に關する

夏期研修会(42.7.26~8.3 名古屋市)開催に協力, 7) 海岸保全施設設計便覧を改訂のため執筆中。

(16-1) 海岸工学委員会論文編集小委員会

委員長 本間 仁 君

外に委員 8名

1) 委員会2回, 2) 第14回海岸工学講演集および Coastal Engineering in Japan Vol. 10 の刊行および Vol. 11 編集。

(17) 衛生工学委員会

委員長 板倉 誠 君

外に委員および幹事 20名

1) 委員会4回, 幹事会1回, 打合せ1回, 懇親会1回, 2) 第4回衛生工学研究討論会(42.9.2~3 札幌市)を開催し, 講演集を刊行, 3) 衛生工学関係者懇親会(42.9.2 札幌市)を開催, 4) 衛生工学に関する調査研究を実施, 5) 下水道雨水流出量に関する研究小委員会(受託)に協力, 6) 公害特別委員会設置に協力。

(17-1) 下水道雨水流出量に関する研究小委員会(受託)

委員長 合田 健 君

外に委員 5名

1) 委員会3回, 2) 下水道雨水流出量に関する調査を実施。

(18) 耐震工学委員会

委員長 那須 信治 君 副委員長 岡本 舜三 君

外に委員 30名

1) 委員会12回, 2) 第9回地震工学研究発表会(42.10.25~26 東京都)を開催し, 講演概要集を刊行, 3) 地震工学トレーニングセンターに協力, 4) 国際地震工学会議に協力, 5) 国内国外の耐震問題の調査研究および連絡, 6) 日本学術会議, 地震工学研究連絡委員会に協力, 7) 軟弱地盤耐震設計研究委員会(受託)に協力, 8) 本州四国連絡橋技術調査委員会耐震設計小委員会(受託)に協力, 9) I.A.E.A パネル討論会(42.6.12~17)開催に協力, 10) 見学会(42.10.21 運輸省港研)を実施, 11) 英文耐震規定(1964年版)を改訂のための準備。

(19) 岩盤力学委員会

委員長 岡本 舜三 君 副委員長 畑野 正 君

外に委員および幹事 66名

1) 委員会1回, 運営委員会5回, 主査幹事会1回, 打合せ1回, 分科会18回, 2) 第1分科会(ダム), 第2分科会(トンネル), 第3分科会(理論)に分れ, それぞれの専門分野につき調査研究を実施, 3) 岩石サンプル収集および岩盤の現地試験に関する調査資料の収集, 整理, 4) 見学会(43.1.16~17 農林省 中信平農業水利事務所トンネル掘削工事現場, 東電梓川水力総建設所ダム工事現場)を実施, 5) 第2回岩の力学国内シンポジウム(1967)(42.11.28~29 東京都)を4学会共催に協力, 6) 国際岩の力学学会に協力, 7) 日本学術会議力学研究連絡委員会岩の力学分科会に協力, 8) 岩の力学研究連合委員会設置に協力。

(20) トンネル工学委員会

委員長 藤井松太郎 君 幹事長 加納 俊二 君

外に委員および幹事 45名

1) 委員会2回, 打合せ2回, 2) トンネル工学に関する調査研究, 3) 欧米トンネル研修視察団(アメリカ班 42.11.10 出発, 欧米班 43.1.13 出発)を結成, 欧米のトンネル視察を実施, 4) 第4回トンネル工学に関するシン

ボジウム (欧米トンネル視察団報告) 開催を準備, 5) トンネル標準示方書改訂に着手, 6) 調査, 設計, 施工, 文献, シールド工法, 土圧の各小委員会に協力, 7) Conference on Tunneling and Shaft Sinking (May 15~17, 1968 Minneapolis, Minnesota) に協力, 8) トンネル用鋼アーチ支保工の強度に関する研究小委員会 (受託) に協力, 9) ずい道覆工の合理的設計施工の基礎的研究委員会 (受託) に協力。

(20-1) 運営小委員会

委員長 住友 彰君 副委員長 坂本 貞雄君
外に委員 17 名

1) 委員会 6 回, 2) トンネル工学委員会の運営につき審議検討。

(20-2) 調査小委員会

委員長 丸安 隆和君
外に委員および幹事 23 名

1) 委員会 3 回, 2) トンネル標準示方書調査編の改訂につき準備中。

(20-3) 設計小委員会

委員長 伊吹山四郎君
外に委員 28 名

1) 委員会 6 回, 2) トンネル標準示方書設計編の改訂につき準備中。

(20-4) 施工小委員会

委員長 粕谷 逸男君
外に委員 18 名

1) 委員会 3 回, 2) トンネル標準示方書施工編の改訂につき準備中。

(20-5) 文献小委員会

委員長 斎藤 徹君
外に委員 12 名

1) 委員会 2 回, 2) トンネル標準示方書の英訳刊行,
3) 国内, 国外のトンネル工学に関する資料収集。

(20-6) シールド工法小委員会

委員長 西嶋 国造君 副委員長 遠藤 浩三君
外に委員 51 名

1) 委員会 5 回, 分科会 4 回, 2) シールド工法設計施工指針につき準備中。

(20-7) 土圧調査小委員会

委員長 村山 朔郎君 副委員長 高橋 彦治君
外に委員 16 名

1) 委員会 3 回, 2) トンネルの土圧に関する測定実績調査を実施。

(20-8) トンネル示方書改訂小委員会

委員長 坂本 貞雄君
外に委員および幹事 21 名

1) トンネル標準示方書改訂の準備中。

(20-9) トンネル用鋼アーチ支保工の強度に関する研究小委員会 (受託)

委員長 坂本 貞雄君
外に委員および幹事 21 名

1) 委員会 2 回, 幹事会 2 回, 2) トンネル用鋼製支保工の線形および材質における強度に関し試験研究を実施, 報告書を提出 (42 年度完了)。

(21) 橋梁構造委員会

委員長 平井 敦君
外に委員および幹事 18 名

1) 委員会 1 回, 準備会 2 回, 2) 第 14 回橋梁・構造工学研究発表会 (42.12.1 東京都) を共催で開催, 講演概要集を刊行, 3) 日本学術会議, 構造研究連絡委員会橋梁・構造工学分科会に協力, 4) 国際橋梁・構造工学会議に協力, 5) 田中賞選考委員会に協力, 6) 構造工学関係現況調査の実施, 7) 英文耐震規定 (1964 年版) 橋梁部門改訂に協力, 8) 橋梁年報編集小委員会に協力。

(21-1) 耐風設計研究小委員会

委員長 平井 敦君
外に委員および幹事 18 名

1) 委員会 1 回, 2) 構造物の耐風設計に関する調査研究を実施。

(21-2) 英文耐震規定改訂小委員会

委員長 友永 和夫君
外に委員および幹事 24 名

1) 委員会 1 回, 2) 英文耐震規定 (1964 年版) 橋梁部門改訂準備中。

(21-3) 橋梁年報編集小委員会

委員長 平井 敦君
外に委員 4 名

1) 委員会 4 回, 2) 「橋 1966-1967」の編集。

(22) コンクリート委員会

委員長 国分 正胤君
外に委員および幹事 79 名

1) 委員会 1 回, 主査幹事会 2 回, 分科会 5 回, 打合せ 3 回, 懇親会 1 回, 2) コンクリート標準示方書を改訂し, その主旨説明会 (5.17 東京都, 6.16 大阪市, 6.24 福岡市, 7.21 札幌市) を開催, 3) 原子炉用プレストレスト コンクリート容器に関する研究小委員会に協力, 4) プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会に協力, 5) コンクリート関係有志懇親会 (42.7.1 東京都) を開催, 6) 太径鉄筋に関する研究小委員会 (受託) に協力, 7) 異形鉄筋コンクリート構造物の設計例改訂小委員会 (受託) に協力, 8) 構造用軽量骨材に関する小委員会 (受託) に協力, 9) フライアッシュ小委員会 (受託) に協力, 10) P C 工法小委員会 (受託) に協力, 11) 空港舗装研究委員会 (受託) に協力, 12) コンクリートおよび鉄筋コンクリート鉄道構造物設計標準に関する研究小委員会 (受託) に協力, 13) 吉田賞選考委員会に協力, 14) 昭和 42 年度夏期講習会開催に協力, 15) コンクリート・ライブラリー 17 号, 18 号を編集, 16) 日本コンクリート会議に協力, 17) 日本学術会議材料研究連絡委員会に協力, 18) 終局強度に関する調査研究に協力 (日本建築学会と共同研究), 19) コンクリート関係 JIS の制定および改正に協力。

(22-1) 無筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長 国分 正胤君
外に委員および幹事 51 名

1) 無筋コンクリート標準示方書および土木学会規準の改訂刊行, 解散。

(22-2) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長 国分 正胤君
外に委員および幹事 34 名

1) 分科会 3 回, 打合せ 1 回, 2) 鉄筋コンクリート標準示方書の改訂版刊行, 解散, 3) 鉄筋コンクリート工場製品に関する調査研究を行ない設計施工指針 (案) の制定, 刊行準備中。

(22-3) コンクリート舗装標準示方書改訂小委員会

委員長 国分 正胤 君

外に委員および幹事 25 名

1) コンクリート舗装標準示方書の改訂版刊行, 解散。

(22-4) ダム コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長 国分 正胤 君

外に委員および幹事 26 名

1) ダム コンクリート標準示方書の改訂版刊行, 解散。

(22-5) プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会

委員長 国分 正胤 君 副委員長 河野 通之 君
外に委員および幹事 58 名

1) 打合せ 1 回, 2) プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂準備中。

(22-6) 異形鉄筋コンクリート構造物設計例改訂小委員会 (受託)

委員長 国分 正胤 君

外に委員および幹事 21 名

1) 委員会 5 回, 担当者打合せ 2 回, 2) 異形鉄筋コンクリート構造物の設計例集改訂の審議を完了し, コンクリート・ライブラリーとして刊行準備中。

(22-7) フライアッシュ小委員会 (受託)

委員長 国分 正胤 君

外に委員および幹事 27 名

1) 委員会 1 回, 幹事会 1 回, 2) フライアッシュを混和したコンクリート中の鉄筋の発錆に関する長期試験研究 (2 年間の試験結果) の報告書取りまとめを完了, コンクリート・ライブラリーとして刊行準備中, また, 5 年試験データを整理中。

(22-8) 太径鉄筋の使用法に関する研究小委員会 (受託)

委員長 国分 正胤 君

外に委員および幹事 10 名

1) 打合せ 1 回, 2) 国産の太径鉄筋の使用法の試験を実施中。

(22-9) PC 工法小委員会 (MDC 工法) (受託)

委員長 国分 正胤 君

外に委員および幹事 39 名

1) 打合せ 1 回, 2) MDC 工法設計施工指針 (案) の審議を完了しコンクリート・ライブラリー 17 号として刊行。

(22-10) PC 工法小委員会 (レオンハルト・レオバ工法) (受託)

委員長 国分 正胤 君

外に委員および幹事 38 名

1) 委員会 10 回, 見学会 1 回, 2) レオンハルト工法およびレオバ工法の設計施工指針のうち, レオンハルト工法設計施工指針 (案) の審議を完了し, 刊行準備中, レオバ工法設計施工指針の審議続行中, 3) 東名高速道路, 豊川橋レオンハルト・レオバ工法の工事現場の見学を実施 (42.5.20 豊橋市)。

(22-11) 原子炉用プレストレスト コンクリート容器に関する研究小委員会

委員長 国分 正胤 君

外に委員および幹事 32 名

1) 委員会 5 回, 2) 原子炉用プレストレスト コンクリート容器の設計施工に関する調査研究を実施し, 報告書の刊行を準備中。

(22-12) 構造用軽量骨材に関する研究委員会 (受託)

委員長 国分 正胤 君

外に委員および幹事 15 名

1) 構造用軽量骨材の品質および使用方法の標準化の基礎資料を得るため国産軽量骨材の共通試験を実施中。

(23) 原子力土木技術委員会

委員長 左合 正雄 君

外に委員および幹事 24 名

1) 委員会 8 回, 打合せ 5 回, 2) 原子力に関する調査研究を実施, 3) 第 4 回理工学における同位元素研究発表会 (42.4.18 東京都) を共催で開催, 4) 第 6 回原子力総合シンポジウム (43.2.19~20 東京都) を共催で開催, 5) I.A.E.A. パネル討論会 (42.6.12~17 東京都) 開催に協力, 6) 「原子力と土木技術」を会誌 (43 年 2 月号) に発表, 7) A.W. Rotz 氏講演会 (42.5.8 東京都) を開催。

(24) 土木計画学研究委員会

委員長 鈴木 雅次 君 副委員長 米谷 栄二 君

外に委員および幹事 21 名

1) 委員会 3 回, 幹事会 1 回, 勉強会 1 回, 2) 第 2 回土木計画学シンポジウム (42.11.21~22 東京都) を開催。

(25) 土木年鑑編集委員会

委員長 八十島義之助 君 副委員長 片山 祐一 君

外に委員および幹事 40 名

1) 委員会 1 回, 幹事会 3 回, 打合せ 3 回, 2) 土木年鑑 (1968 年度) の編集。

(26) 土木製図基準改訂委員会

委員長 菊池 洋一 君

外に委員および幹事 17 名

1) 打合せ 1 回, 2) 土木製図基準 (改訂版) の編集, 3) 土木製図に関する会員へのアフターケアを行なっている。

(27) 土木工学叢書委員会

委員長 最上 武雄 君

外に委員および幹事 8 名

1) 委員会 1 回, 2) 土木工学叢書 (全 23 巻) の編集。

(28) 日本土木史編集委員会

委員長 青木 楠男 君 副委員長 佐藤 寛政 君

外に委員および幹事 27 名

1) 委員会 2 回, 分科会 10 数回, 連絡者会議 1 回, 2) 日本土木史 (昭和 16 年~昭和 40 年) 出版につき執筆編集等実施中。

(29) わかり易い土木講座編集委員会

委員長 福田 武雄 君 副委員長 後藤 正司 君

外に委員および幹事 57 名

1) 幹事会 1 回, 2) わかり易い土木講座全 21 巻の編集。

(30) 本州四国連絡橋技術調査委員会 (受託)

委員長 青木 楠男 君 副委員長 沼田 政矩 君

顧問 内海 清温 君 顧問 鈴木 雅次 君

外に委員・幹事および幹事補佐 44 名

1) 委員会 1 回, 幹事会 1 回, 打合せ 9 回, 2) 本州四国連絡橋の技術的検討を行なうため, 基礎に関する専門部会, 上部構造に関する専門部会, 耐風設計小委員会, 耐震設計小委員会, 縮小委員会において調査研究を行ない, 下記最終報告をなし, 42 年 12 月をもって完了した。

① 本州四国連絡橋技術調査報告書

- ② 同付属資料 1. 耐風設計指針 (1967) および同解説
 ③ 同付属資料 2. 耐震設計指針 (1967) 同解説および耐震設計詳説
 ④ " 3. 鋼材に関する調査資料
 ⑤ " 4. 基礎施工法に関する調査資料
 ⑥ " 5. 道路橋構造概要図
 ⑦ " 6. 道路鉄道併用橋構造概要図
 ⑧ " 7. 道路鉄道併用橋に関する調査資料

30-1) 基礎に関する専門部会 (受託)

部会長 沼田 政矩君 副部長 広田 孝一君
 外に委員および幹事 66 名

- 1) 幹事会 4 回, 2) 最終報告書とりまとめに協力。

30-2) 上部構造に関する専門部会 (受託)

部会長 青木 楠男君
 外に委員および幹事 55 名, 特別委員 10 名

- 1) 幹事会 2 回, 打合せ 2 回, 2) 最終報告書とりまとめに協力。

(30-3) 耐風設計小委員会 (受託)

委員長 平井 敏君
 外に委員および幹事 47 名

- 1) 委員会 1 回, 幹事会 1 回, 打合せ 1 回, 2) 最終報告書とりまとめに協力。

(30-4) 耐震設計小委員会 (受託)

委員長 岡本 舜三君
 外に委員および幹事 54 名

- 1) 委員会 1 回, 幹事会 2 回, 打合せ 2 回, 2) 最終報告書とりまとめに協力。

(30-5) 縮小委員会 (受託)

委員長 青木 楠男君
 外に委員 18 名

- 1) 委員会 3 回, 幹事会 7 回, 2) 最終報告書とりまとめに協力。

(31) 空港舗装研究委員会 (受託)

委員長 国分 正胤君 副委員長 谷藤 正三君
 外に委員および幹事 22 名

- 1) 委員会 4 回, 幹事会 7 回, 打合せ 2 回, 懇談会 1 回,
 2) 新東京国際空港の舗装の技術的検討を行なうため,
 コンクリート・アスファルト舗装の調査および試験研究を実施。

(31-1) コンクリート舗装部会 (受託)

部会長 国分 正胤君
 外に委員および幹事 23 名

- 1) 部会 7 回, 主査幹事会 6 回, 分科会 61 回, 見学会 9 回, 2) 空港コンクリート舗装に関する設計法, 施工管理の調査およびコンクリート材料配合の試験研究を実施,
 3) 国道 4 号線野辺地バイパス (42.7.6~9), 横田基地誘導路 (42.7.21), 東京国際空港 C 滑走路 (42.7.21~7.27), 国道 14 号線市原市 (42.7.31), 国道 4 号線郡山 (42.8.8~9), 鹿島港細骨材産地 (42.8.15~16), 千歳, 丘珠空港 (42.11.4~19), 大阪, 広島空港 (43.2.18~19) 等の舗装現場および工事現場の視察, 見学会を実施,
 4) 成果を下記の報告書として刊行

- ① 無筋コンクリート舗装の設計方法に関する調査研究
 ② 諸外国の空港コンクリート舗装設計基準
 ③ 鉄筋コンクリート舗装の設計方法に関する調査研

究

- ④ プレストレスト コンクリート舗装の設計方法に関する調査研究
 ⑤ 嵩上げ舗装の設計方法に関する調査資料
 ⑥ コンクリート舗装の比較設計に関する指針
 ⑦ 骨材に関する調査研究
 ⑧ コンクリート材料および配合に関する試験研究
 ⑨ 目地材料に関する調査研究
 ⑩ 舗装用施工機械に関する調査研究仕様

(31-2) アスファルト舗装部会 (受託)

部会長 谷藤 正三君
 外に委員および幹事 22 名

- 1) 部会 7 回, 主査幹事会 6 回, 分科会 12 回, 見学会 2 回, 2) 空港アスファルト舗装に関する構造設計, 材料の配合設計, 施工管理の調査および試験研究の実施, 3) 羽田空港滑走路 (42.7.27), 中央高速道路 (42.9.16~17) の視察見学会を実施, 4) 成果を下記報告書として刊行

- ① 空港におけるアスファルト舗装の構造設計に関する調査研究 (第 1 報, 第 2 報)
 ② アスファルト舗装の構造設計に関する調査研究
 ③ アスファルト舗装の材料と配合設計に関する調査研究
 ④ アスファルト舗装の品質管理に関する調査研究
 ⑤ 舗装用施工機械に関する調査研究仕様

(32) 河北潟干拓船越水道特別委員会 (受託)

委員長 福田 仁志君

外に委員・幹事および幹事補佐 20 名

- 1) 委員会 3 回, 2) 河北潟干拓建設事業 河口工事施行に関する調査研究を実施。

(33) 中海干拓事業水理研究専門委員会 (受託)

委員長 速水頌一郎君

外に委員・幹事および幹事補佐 28 名

- 1) 委員会 2 回, 2) 中海干拓事業の中海および周辺水域におよぼす水理学的影響に関する調査研究を実施。

(34) 相模川高度利用計画に伴う河口調査委員会 (受託)

委員長 本間 仁君

外に委員および幹事 12 名

- 1) 委員会 1 回, 打合せ 5 回, 2) 相模川高度利用計画に伴う河口調査を実施。

(35) 軟弱地盤耐震設計研究委員会 (受託)

委員長 岡本 舜三君

外に委員および幹事 50 名

- 1) 委員会 4 回, 幹事会 6 回, 打合せ 4 回, 2) 軟弱地盤における橋梁下部構造の耐震設計に関する調査研究を実施 (同研究課題は 42 年で完了)。

(36) ずい道覆工の合理的設計施工の基礎的研究委員会 (受託)

委員長 住友 彰君

外に委員および幹事 18 名

- 1) ずい道覆工の合理的設計施工の基礎的調査研究を実施。

(37) コンクリートおよび鉄筋コンクリート鉄道構造物設計標準に関する研究委員会 (受託)

委員長 国分 正胤君

外に委員および幹事 49 名

- 1) 委員会 2 回, 幹事会 9 回, 打合せ 1 回, 2) コンクリートおよび鉄筋コンクリート鉄道構造物設計標準に関

する調査研究を実施。

(38) 鋼鉄道橋示方書委員会(受託)

委員長 沼田 政矩 君

外に委員および幹事 28 名

1) 委員会 2 回, 幹事会 5 回, 打合せ 3 回, 2) 新高張力鋼を用いた鋼鉄道橋設計および製作示方書に関する調査研究を実施。

(39) 土木技術者研修計画委員会(受託)

委員長 丸安 隆和 君

外に委員および幹事 11 名

1) 委員会 1 回, 打合せ 2 回, 2) 前年度より引続き研究を進め, 委託者である運輸省第二港建に対して 9 月末に報告書を提出し, 委員会を解散した。

V. 本部行事

(1) 講演会・研究発表会・シンポジウム・説明会

- 1) 42. 5. 8: A.W. Rotz 氏講演会, 土木学会会議室, 講演数; 1 題, 参加者; 26 名
- 2) 42. 5. 17: コンクリート標準示方書改訂主旨説明会, 東京都大和証券ホール, 参加者; 400 名
6. 16: コンクリート標準示方書改訂主旨説明会, 大阪市科学技術センター, 参加者; 400 名
6. 24: コンクリート標準示方書改訂主旨説明会, 福岡市町村会館, 参加者; 342 名
7. 21: コンクリート標準示方書改訂主旨説明会, 札幌市日本生命ホール, 参加者; 243 名
- 3) 42. 5. 27~28: 第 22 回年次学術講演会(中国・四国支部実施)
 1. 総合講演, 見真講堂, 講演数; 3 題, 参加者; 800 名
 2. 一般講演, 広島大学
講演数; I 部門 183 題, 参加者; 延 850 名
II 部門 186 題, 参加者; 延 810 名
III 部門 163 題, 参加者; 延 780 名
IV 部門 196 題, 参加者; 延 790 名
- 4) 42. 9. 2~3: 第 4 回衛生工学研究討論会, 北海道大学工学部講堂, 講演数; 21 題, 参加者; 130 名
- 5) 42. 10. 19~20: 第 14 回海岸工学講演会, 神奈川県農業会館, 講演数; 特別 1 題, 一般 50 題, 参加者; 320 名
- 6) 42. 10. 25~26: 第 9 回地震工学研究発表会, 土木学会図書館講堂, 講演数; 特別 2 題, 一般 26 題, 参加者; 110 名
- 7) 42. 11. 21~22: 第 2 回土木計画学シンポジウム, 銀座ガスホール, 講演数; 12 題, 参加者; 250 名
- 8) 43. 2. 9~10: 第 12 回水理講演会, 発明会館ホール, 講演数; 23 題, 参加者; 300 名

(2) 講習会・研修会

- 1) 42. 7. 26~8. 3: 第 4 回水工学に関する夏期研修会, 愛知県建設業会館
講師: A コース 6 名 参加者; A コース 125 名
同; B コース 7 名 同; B コース 115 名
- 2) 42. 8. 3~4: 昭和 42 年度夏期講習会, 厚生年金会館ホール, 講演数; 12 題, 参加者; 1052 名

(3) 見学会・エキスカカーション

- 1) 42. 5. 29~30: 第 53 回通常総会に伴う見学会
A. 広島市内, 宮島コース(1 日), 参加者; 66 名

B. 出雲路コース(2 日), 参加者; 52 名

C. 四国路コース(2 日), 参加者; 66 名

- 2) 42. 10. 21: 第 14 回海岸工学講演会に伴う見学会
見学先; 横浜港, 根岸港, 湘南港, 参加者; 75 名
 - 3) 42. 11. 21~22: 秋のエキスカカーション(関東支部共催)
見学先; 東名高速道路, 参加者; 49 名
- (4) 懇親会
- 1) 42. 5. 27: 第 53 回通常総会に伴う懇親会, 広島市羽田別荘, 参加者; 600 名
 - 2) 42. 7. 1: コンクリート関係有志懇親会, 土木学会会議室, 参加者; 47 名
 - 3) 42. 9. 2: 第 4 回衛生工学研究討論会に伴う懇親会, 北海道大学, 参加者; 60 名
 - 4) 42. 10. 19: 第 14 回海岸工学講演会に伴う懇親会, 神奈川県農業会館, 参加者; 90 名
 - 5) 42. 10. 25: 第 9 回地震工学研究発表会に伴う懇親会, 土木学会会議室, 参加者; 20 名
- (5) その他
- 1) 42. 8. 9: 欧米トンネル研修視察団結成会, 土木学会会議室, 参加者; 33 名
 - 2) 42. 10. 31: 欧米トンネル研修視察団米国チーム壮行会, 土木学会会議室, 参加者; 23 名
 - 3) 42. 12. 20: 欧米トンネル研修視察団欧州チーム壮行会, 土木学会会議室, 参加者; 29 名
 - 4) 43. 1. 25: J.A.H.R 総会, その他の報告会, 土木図書館講堂, 参加者; 40 名
- (6) 他学会協会との共催, 協賛, 後援
- 1) 42. 4. 18~20: 第 4 回理工学における同位元素研究発表会(共催), 国立教育会館
 - 2) 42. 5. 10: ヘルムート・ボルヒェル氏講演会(共催), 日本建築学会会議室
 - 3) 42. 6. 7~8: 第 5 回接着研究発表会(共催), 東京工業大学講堂
 - 4) 42. 7. 18~21: 「金属の物理的性質」講習会(協賛), 科学技術館ホール
 - 5) 42. 8. 22~25: 応力測定に関する講習会(協賛), 名古屋工業大学
 - 6) 42. 8. 28~29: 高分子材料の強度に関する講習会(協賛), 日本化学会講堂
 - 7) 42. 8. 29~31: 第 16 回レオロジー討論会(共催), 北海道大学
 - 8) 42. 8. 28~9. 1: 第 6 回宅地造成技術講習会(共催), 東京; 上智大学, 大阪; 京都商工会議所
 - 9) 42. 9. 8~9: 第 11 回材料研究連合講演会(共催), 日本化学会講堂
 - 10) 42. 10. 19~20: 第 17 回応用力学連合講演会(共催), 東京大学工学部 8 号館
 - 11) 42. 11. 18: 混相流シンポジウム(共催), 土木図書館講堂
 - 12) 42. 11. 23~24: 第 4 回災害科学総合シンポジウム(後援), 宮城県民会館
 - 13) 42. 11. 28: 第 2 回岩の力学国内シンポジウム(1967)(共催), 大和証券ホール
 - 14) 42. 11. 29: 第 8 回構造物の軽量化に関するシンポジウム(共催), 土木図書館講堂
 - 15) 42. 11. 29: コンクリートパイル基礎講習会(協賛), 天

- 16) 42.12. 1: 第14回橋梁・構造工学研究発表会(共催), 土木図書館講堂
- 17) 42.12. 8: 第14回風に関するシンポジウム(共催), 農業技術研究所講堂
- 18) 43. 2.10: 最近の河川災害に関するシンポジウム(後援), 発明会館
- 19) 43.2.19~20: 第6回原子力総合シンポジウム(共催), 国立教育会館

VI. 支部行事

(1) 北海道支部

- 1) 支部総会(42.4.14) 札幌市勤銀ビル6階
- 2) 商議員会 3回
- 3) 幹事会 7回
- 4) 論文編集委員会 4回
- 5) 支部奨励賞選考委員会 1回
- 6) 講演会
 - (1) 42. 6. 7: 第1回講演会(共催), 道銀ビル, 講演数; 2題, 参加者; 100名
 - (2) 42. 7.21: コンクリート標準示方書改定主旨説明会(共催), 日生ビル, 講演数; 5題, 参加者; 300名
 - (3) 42. 9.21: 第2回講演会, 旭川市, 講演数; 3題, 参加者; 60名
 - (4) 42.10.24: 第3回講演会, 婦人会館, 講演数; 2題, 参加者; 80名
 - (5) 43. 1.26: 第4回講演会, 婦人会館, 講演数; 3題, 参加者; 110名

7) 研究発表会

- (1) 43. 2.26: 昭和42年度支部年次研究発表会, 札幌市民会館, 発表数 38 題, 参加者; 150 名

8) 講習会

- (1) 43. 3. 5: 昭和42年度年次講習会, 札幌市民会館, 講演数; 4題, 参加者; 70名

9) 見学会

- (1) 42. 9. 8: 第1回見学会(函館地区)(共催), 見学先; 函館港北浜埠頭工事, 川クミ長大トンネル, 山背泊漁港修築工事, 参加者; 31名
- (2) 42. 9.22: 第2回見学会(旭川地区), 見学先; 国鉄立体交差工事~旭川大橋下部工事~岩尾内ダム, 参加者; 45名
- (3) 42.10. 6: 第3回見学会(釧路地区), 見学先; 釧路漁港修築工事~釧路市都市改造工事~厚岸漁港修築工事, 参加者; 25名
- (4) 42.10.22: 第4回見学会(札幌地区)(共催), 見学先; 札幌市南1条橋下部工事~千歳川内水排除工事~美笛トンネル, 参加者; 50名

10) 映画会

- (1) 42. 7. 1: 第1回学生のための映画会, 北海道大学工学部, 映画; 3編, 参加者; 60名

(2) 東北支部

- 1) 支部総会(42.5.11) セントラルホテル
- 2) 商議員会 1回

- 3) 役員会 1回
- 4) 幹事会 3回
- 5) 会計監査 1回

6) 研究発表会

- (1) 43. 2.27: 第1回研究発表会, 宮城県民会館会議室, 発表数; 37 題, 参加者; 200 名

7) 技術講座

- (1) 42.10.20: 第1回技術講座, 青森県農業会館, 講演数; 2題, 参加者; 150名

8) 見学会

- (1) 42. 7.11: 第1回見学会(日本大学学生), 見学先; 会津若松~芦牧橋架設現場, 参加者; 100名
- (2) 42.10.10: 第2回見学会(岩手大学学生), 見学先; 国鉄釜石鉱業所~三陸国道トンネル工事現場, 参加者; 100名
- (3) 42.11.27: 第3回見学会(東北大学学生), 見学先; 東北電力大熊原原子力発電所建設現場, 参加者; 120名

9) 支部設立30周年記念式典

- (1) 42.11.10: 宮城県民会館, 式典・参加者; 100名, 講演・参加者; 200名

(3) 関東支部

- 1) 支部総会(42.4.28) 土木図書館講堂

- 2) 役員会 1回
- 3) 幹事会 8回
- 4) 顧問会 2回

- 5) 選挙(42.4.1~22) 昭和42年度関東地区評議員選挙

6) 講演会

- (1) 42.12. 5: 首都圏の開発, 土木図書館講堂, 講演数; 4題, 参加者; 70名
- (2) 43. 1.23: アジアの開発, 土木図書館講堂, 講演数; 4題, 参加者; 50名

7) 講習会

- (1) 42.10.12~13: 建造物の基礎, ヤマハホール, 講演数; 12 題, 参加者; 520 名
- (2) 42.10.17~18: 新しい測定技術, 日本化学会講堂, 講演数; 8 題, 参加者; 109 名
- (3) 42.11.7~8: 近代的管理手法の活用, 大和証券ホール, 講演数; 5 題, 参加者 138 名

8) 見学会

- (1) 42.10.14: 中央高速道路見学会, 参加者; 96名
- (2) 42.10.24: 京浜地区見学会, 参加者; 46名
- (3) 42.11.21~22: 東名高速道路見学会(本部と共催), 参加者; 49名

9) 映画会

- (1) 42. 6.21: 第1回, 日本大学, 映画; 3編, 参加者; 300名
- (2) 42. 7. 6: 第2回, 土木図書館講堂, 映画; 3編, 参加者; 30名
- (3) 42. 8.28: 第3回, 宇都宮市栃木会館, 映画; 3編, 参加者; 130名
- (4) 42. 9.23: 第4回, 埼玉県と野農工高, 映画; 3編, 参加者; 80名
- (5) 42.12. 9: 第5回, 早稲田大学, 映画; 4編, 参加者; 130名
- (6) 43. 2.21: 第6回, 群馬県農業会館, 映画; 3編,

- 参加者; 400 名
- 10) 刊 行 物
- (1) 42.10.10: 構造物の基礎, 1000 部
 - (2) 42.10.15: 新しい測定技術, 300 部
 - (3) 42.11. 5: 近代的管理手法の活用, 500 部
- (4) 中 部 支 部
- 1) 支部総会 (42.4.22) 静岡市日興会館ホール
 - 2) 役員会 4 回
 - 3) 幹事会 11 回
 - 4) 評議員会 3 回
 - 5) 顧問会 1 回
 - 6) 郷土の土木特集委員会 6 回
 - 7) 全国大会準備委員会 6 回
 - 8) 講 演 会
 - (1) 42. 4.22: 支部総会記念講演, 静岡市日興会館 ホール, 講演数; 2 題, 参加者; 67 名
 - (2) 42.10.13: 第 1 回, 岐阜市市町村会館, 講演数; 3 題, 映画; 2 編, 参加者; 101 名
 - 9) 研究発表会
 - (1) 42.11.11: 第 1 回, 長野市信州大学工学部, 特別講演; 1 題, 発表数; 60 題, 参加者; 214 名
- 10) 講 習 会
- (1) 42.6.14~15: 第 1 回 (水理学, 水文学における最近の進歩) (共催), 愛知県産業貿易会館, 講演数; 特別 1 題, 一般 22 題, 参加者; 144 名
 - (2) 42. 9.29: 第 2 回 (コンクリート標準示方書改訂について), 中電ホール, 講演数; 5 題, 参加者; 510 名
- 11) 技 術 講 座
- (1) 42.8.10~11: 第 1 回 (構造物の理論と計算), 名古屋大学土木工学教室, 講演数; 4 題, 参加者; 110 名
- 12) 見学会 (一般)
- (1) 42. 4.22: 支部総会に伴なう見学会, 見学先; 東名高速道路工事 ~ 田子ノ浦港工事, 参加者; 67 名
 - (2) 42. 7.14: 第 1 回見学会, 見学先; 高根第 1.2 ダム発電所, 参加者; 44 名
 - (3) 42. 9.29: 第 2 回見学会, 見学先; 名古屋高潮防波堤~名四国道工事, 参加者; 77 名
 - (4) 42.12. 8: 第 3 回見学会, 見学先; 東名高速道路工事 (小牧-岡崎), 参加者; 65 名
 - (5) 43. 3.15: 第 4 回見学会, 見学先; 地下鉄 1 号線 東部~西部工事, 参加者; 55 名
- 13) 見学会 (学生)
- (1) 42. 4. 3: 金沢大学生のための見学会, 見学先; 大阪地下鉄工事, 参加者; 50 名
 - (2) 42. 6.15: 名古屋大学生のための見学会, 見学先; 高根第 1.2 ダム発電所工事, 参加者; 21 名
 - (3) 42. 9.21: 岐阜大学生のための見学会, 見学先; 住友セメント岐阜工場, 参加者; 52 名
 - (4) 42.10.16: 信州大学生のための見学会, 見学先; 東京地下鉄~中央高速道路工事, 参加者; 60 名
- 5) 43. 2. 9: 名古屋工業大学生のための見学会, 見学先; 名古屋市大治浄水場, 参加者; 60 名
- 14) 懇 親 会
- (1) 42. 4.22: 支部総会に伴なう懇親会, 熱海市新熱海ホテル, 参加者; 67 名
- (5) 関 西 支 部
- 1) 支部総会 (42.5.9) 好文倶楽部
 - 2) 商議員会 4 回
 - 3) 幹事会 13 回
 - 4) 土木学会賞候補支部推薦詮衡委員会 2 回
 - 5) 役員候補者選考委員会打合せ 1 回
 - 6) 40 周年行事計画小委員会 5 回
 - 7) 騒音振動委員会

委員会	12 回
幹事会	12 回
公害用振動計規格に関する懇談会	1 回
前日本音響学会長, 寺田 栄氏を囲んで懇親会	1 回
 - 8) 講 演 会
 - (1) 42. 5. 9: 支部総会講演会, 好文倶楽部, 講演数; 2 題, 参加者; 69 名
 - (2) 42. 6.14: Dr. Eagleson 氏講演会, 京都大学, 講演数; 1 題, 参加者; 45 名
 - (3) 42. 6.16: コンクリート標準示方書改訂主旨説明会 (共催), 大阪科学技術センター, 講演数; 5 題, 参加者; 420 名
 - (4) 42. 6.21: Dr. Newmark 氏講演会, 京都大学, 講演数; 1 題, 参加者; 200 名
 - (5) 42. 8.24: Dr. Wen 氏講演会, 京都大学, 講演数; 1 題, 参加者; 50 名
 - (6) 42.11. 7: 兵庫地方講演会 (共催), 城崎町公会堂, 講演数; 4 題, 映画; 1 編, 見学先; 港大橋, 参加者; 102 名
 - (7) 42.11.12: 関西支部 年次学術講演会 (昭和 42 年度), 講演数; 特別 1 題, 一般 151 題, 参加者; 408 名
 - (8) 43. 1.18: 海外事情講演会, 好文倶楽部, 講演数; 2 題, 参加者; 99 名
 - (9) 43. 3.12: 「岩盤および硬土盤掘削」に関する講演会 (協賛), 日本経済新聞社, 講演数; 6 題, 参加者; 231 名
 - 9) 講 習 会
 - (1) 42.6.14~15: 講習会「水理学・水文学における最近の進歩」(共催), 愛知県産業貿易会館, 講演数; 24 題, 参加者; 144 名
 - (2) 42.6.27~28: 土木工学における動的現象の計測とデータ処理に関する講習会, 講演数; 8 題, 参加者; 179 名
 - (3) 42.7.5~11.15(の毎週水曜日): アドハンストコース金属表面講座 (後援), 大阪科学技術センター, 講演数; 12 題, 参加者; 179 名
 - (4) 42.8.2~3: 新しい建築施工技術ゼミナール「合板型枠」(後援), 大阪科学技術センター, 講演数; 10 題, 参加者; 199 名
 - (5) 42.9.5~6: 「無音無振動基礎工法」講習会 (協賛), 朝日生命ホール, 講演数; 15 題, 参加者; 550 名

- (6) 42.11.14: コンクリート工事用樹脂に関する講習会(共催),大阪科学技術センター,講演数;特別1題,一般7題,参加者;277名
- (7) 42.12.5~6:写真測量とその応用に関する講習会,大阪科学技術センター,講演数;8題,映画;1編,参加者328名,測量所見学;1班31名・2班27名
- (8) 43.3.27~28:騒音振動公害に関する講習会,大阪科学技術センター,講演数;10題,パネル討議;2題,参加者;331名
- 10) 研究会
- (1) 43.2.6:シールド工法研究会,大阪科学技術センター,題目;4題,参加者;150名
- (2) 43.2.16:臨海地帯水問題研究会,大阪科学技術センター,題目;6題,参加者;89名
- 11) 見学会(一般)
- (1) 42.5.25~26:第1回見学会,見学先;電発九頭竜川長野ダム工事,参加者;59名
- (2) 42.8.22:第2回見学会,見学先;阪神高速道路~大阪守口線~大阪池田線~神戸1号線,参加者;117名
- (3) 42.10.27:第3回見学会,見学先;関電美浜原子力発電所~日本原子力発電所工事,参加者;90名
- 12) 見学会(学生)
- (1) 42.10.21~10.28:第1回学生のための見学会,見学先;水資源公団高山ダム工事,参加者;21日・第1班・91名,28日・第2班・87名;計178名
- (2) 42.11.30:第2回学生のための見学会,見学先;関電喜撰山水力発電所工事,参加者;67名
- 13) 映画会(学生)
- (1) 42.11.17:学生映画会,立命館大学,参加者;63名
- (2) 42.11.18:学生映画会,京都大学,参加者;60名
- (3) 42.11.20:学生映画会,大阪大学,参加者;161名
- (4) 42.11.21:学生映画会,大阪工業大学,参加者;60名
- (5) 42.11.22:学生映画会,大阪市立大学,参加者;60名
- (6) 42.11.24:学生映画会,近畿大学,参加者;258名
- (7) 42.11.25:学生映画会,神戸大学,参加者;57名
- 14) 座談会
- (1) 42.10.23:40周年記念出版座談会,大阪科学技術センター,参加者;9名
- 15) 懇親会
- (1) 42.5.9:支部総会に伴う懇親会,好文倶楽部,参加者;50名
- (2) 42.6.27:若い会員懇親パーティ(第1回),大阪科学技術センター,参加者;37名
- (3) 42.12.5:若い会員懇親パーティ(第2回),大阪科学技術センター,参加者;29名
- (4) 43.1.18:会員懇親会,好文倶楽部,参加者;75名
- (5) 43.3.27:若い会員懇親パーティ(第3回),大阪科学技術センター,参加者;18名
- (6) 43.3.28:講師懇親会,大阪科学技術センター,参加者;25名
- 16) その他
- (1) 42.4.3:スウェーデン学生交歓会,大阪旅行会館,参加者;121名
- (2) 42.8.27~30:土木系学生会第3回全国大会,大阪旅行会館,参加者;128名
- (6) 中国四国支部
- 1) 役員会 3回
- 2) 幹事会 13回
- 3) 講演会
- (1) 42.10.3~4:第1回講演会,香川県農協会館,講演数;5題,参加者;270名
- (2) 42.11.21~22:支部大会(第19回学術講演会)岡山県庁9階ホール,講演数;特別5題,一般39題,参加者;200名
- (3) 43.3.29:第2回講演会,広島合同庁舎大会議室,講演数;3題,参加者;100名
- 4) 見学会
- (1) 43.3.25~27:第1回見学会,見学先;本州四国連絡調査事務所~阪神高速道路~日本万国博工事~琵琶湖大橋,参加者;43名
- 5) 映画会
- (1) 42.10.6:第1回映画会,広島合同庁舎大会議室,映画;3編,参加者;200名
- (2) 42.10.12:第2回映画会,島根県庁大会議室,映画;3編,参加者;250名
- (3) 43.3.8:第3回映画会,山口県自治会館,映画;4編,参加者;150名
- 6) 優秀卒業生表彰
- | | | | |
|-------|---------|-----|-----|
| 43.3. | : 大学工学部 | 4校 | 4名 |
| | 短期大学 | 1校 | 1名 |
| | 工業高等学校 | 23校 | 25名 |
- (7) 西部支部
- 1) 支部総会(43.2.28)福岡市平和台学舎
- 2) 評議員会および幹事会 1回
- 3) 幹事会 4回
- 4) 郷土の土木編集委員会
- | | |
|------|----|
| 委員会 | 4回 |
| 小委員会 | 3回 |
- 5) 講演会
- (1) 42.11.16:特別講演会,福岡市天神ビル,講演数;3題,参加者;90名
- 6) 研究発表会
- (1) 42.12.14:新材料新工法発表会,福岡市明治生命ホール,発表数;9題,参加者;148名
- (2) 43.2.28:第1回発表会,福岡市平和台学舎,発表数;88題,参加者;218名
- 7) 講習会
- (1) 42.8.24:昭和42年夏期講習会,宮崎県えびの高原荘,講演数;9題,参加者;170名
- 8) 見学会
- (1) 42.8.25:第1回見学会,見学先;水搬工法によるシラス輸送現場,参加者;140名
- 9) 映画会
- (1) 42.8.26:第1回映画会,宮崎市,参加者;80名
- (2) 42.10.24:第2回映画会,下関市,参加者;140名
- (3) 42.10.25:第3回映画会,北九州市八幡区,参加

者: 130 名

(4) 42.10.26: 第4回映画会, 佐賀市, 参加者: 210 名

(5) 42.10.27: 第5回映画会, 長崎市, 参加者: 160 名

(6) 43. 2.14: 第6回映画会, 大分市, 参加者: 300 名

VII. 会計年間統計

年別	正会員	特別会員						名誉会員	賛助会員	学生会員	合計	
		特級	一級A	一級B	一級C	一級D	二級					
42.3	18 782	19	16	51	209	326	58	679	61	30	4 318	23 870
43.3	19 706	19	16	58	214	337	66	710	60	30	4 802	25 308
増減	+1 124	0	0	+7	+5	+11	+8	+31	-1	0	+484	+1 438

議案 2. 昭和 42 年度決算報告書 (自昭和 42 年 4 月 1 日 至昭和 43 年 3 月 31 日)

飯吉理事より説明があり承認された。

1. 普通会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 会費	59 267 142	1 用地費	1 009 300
1 正会員	36 719 415	2 事務費	30 575 096
2 学生会員	3 581 782	1 人件費	23 045 024
3 特別会員	18 965 945	2 備品・消耗品費	1 801 523
2 論文集講読料	3 691 155	3 通信費	2 091 688
3 刊行物売上代	79 828 391	4 水道光熱費その他	3 636 861
1 既刊行物	19 297 233	3 会費徴収費	1 835 418
2 新刊行物	60 531 158	4 公租公課	20 200
4 行事収入	5 415 472	5 会議費	3 768 250
1 講習会及講演会	5 376 472	1 総会費	1 689 680
2 見学会	39 000	2 役員会議	2 078 570
5 広告収入	22 306 695	6 支部交付金	8 634 341
1 学文誌	17 125 200	7 会誌発行費	31 367 596
2 論文集	504 000	8 論文集発行費	5 813 608
3 学会名簿	3 709 200	9 名簿発行費	7 301 469
4 その他	968 295	10 刊行物経費	44 410 913
6 預金利息その他	2 301 621	1 既刊行物	13 492 391
7 委託研究費	38 038 253	2 新刊行物	30 918 522
8 印税	1 035 250	11 行事経費	3 920 282
9 図書館使用料	988 029	1 講習会及講演会	3 836 582
10 雑収入	147 650	2 見学会	83 700
		12 土木学会賞費	546 720
		13 調査研究費	6 117 401
		14 委託研究経費	32 852 312
		15 図書整備費	1 048 762
		16 施設維持費	425 798
		17 引当金	7 975 191
		18 渉外費	48 310
		19 広報費	124 800
		20 学協会費	287 100
		21 予備費	0
		22 委託研究費残額繰越(預り金勘定へ保留)	5 185 941
		23 繰越金勘定へ繰入	19 750 850
合計	213 019 658	合計	213 019 658

繰越金内訳

前年度より繰越額(累計)	12 939 795 円
41 年度分一般基金へ組入(利子の一部)	△22 628 円
当年度普通会計より繰入	19 750 850 円
次年度へ繰越額	32 668 017 円

2. 吉田賞会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 東京電力株配当金	2 190 000	1 賞金	100 000
2 貸付信託預金利息	294 148	2 奨励金	1 300 000
3 銀行預金利息	37 883	3 賞牌	57 200
4 前年度より繰越金	1 160 052	4 受賞者旅費	211 680
		5 委員会費	111 520
		6 論文審査費	0
		7 事務費	24 135
		8 雑費	4 500
		9 次年度へ繰越金	1 873 048
合計	3 682 083	合計	3 682 083

3. 田中賞会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 鉄道建設債券利息	375 000	1 賞牌	351 200
2 貸付信託預金利息	397 100	2 受賞者旅費	54 960
3 銀行預金利息	29 578	3 論文審査費	20 330
4 前年度より繰越金	909 685	4 委員会費	72 780
		5 事務費	41 575
		6 次年度へ繰越金	1 170 518
合計	1 711 363	合計	1 711 363

4. 日本土木史編集会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 利子収入	222 500	1 委員会費	106 880
2 前年度より繰越金	4 114 771	2 資料収集費	157 972
		3 編集諸費	9 850
		4 次年度へ繰越金	4 062 569
合計	4 337 271	合計	4 337 271

5. 貸借対照表

(昭和 43 年 3 月 31 日現在)

資産の部(借方)		負債の部(貸方)	
科目	金額	科目	金額
1 現金	457 100	1 基金	42 160 326
2 預金	61 017 075	1 一般基金	7 831 901
3 有価証券	37 682 311	2 吉田博士記念基金	23 865 925
4 売掛金	8 156 805	3 田中博士記念基金	10 462 500
5 未収入金	12 156 000	2 事務所及設備元入金	9 609 297
6 棚卸図書	8 295 229	3 図書館建設元入金	39 211 029
7 仕掛品	622 900	4 引当金	12 605 865
8 仮払金	85 050	5 未払金	13 486 011
9 立替金	2 451 527	6 預り金	18 361 098
10 前払金	162 358	7 前受金	4 917 075
11 建物及諸施設	40 643 072	8 仮受金	347 108
12 什器及備品	8 742 534	9 吉田賞会計	1 873 048
		10 田中賞会計	1 170 518
		11 日本土木史編集会計	4 062 569
		12 普通会計繰越金	32 668 017
合計	180 471 961	合計	180 471 961

6. 財産目録

(昭和43年3月31日現在)

産 資 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 現 金	457 100	1 未 払 金	13 486 011
2 預 金	61 017 075	2 預 り 金	18 361 098
3 有 価 証 券	37 682 311	3 前 受 金	4 917 075
4 売 掛 金	8 156 805	4 仮 受 金	347 108
5 未 収 入 金	12 156 000	5 減 価 償 却 引 当 金	6 648 357
6 棚 卸 凶 書	8 295 229	6 純 資 産	136 712 312
7 仕 掛 品	622 900		
8 仮 払 金	85 050		
9 立 替 金	2 451 527		
10 前 払 金	162 358		
11 建 物 及 諸 施 設	40 643 072		
12 什 器 及 備 品	8 742 534		
合 計	180 471 961	合 計	180 471 961

7. 基金内訳

(昭和43年3月31日現在)

受入年月	基 金 名 称	基 金 額
大正 4.3	故 古 市 公 威 兩博士記念基金	27 152
" " 8.4	" 沖 野 忠 雄	
" " 9.5	" 白 石 直 治 博士	24 071
" " 8.12	" 山 崎 鉦次郎	2 556
" " 9.6	" 広 井 勇 " 土木賞牌基金	779
" " 11.4	" 原 田 貞 介 " 記念基金	4 985
昭和 3.6	" 広 井 勇 " " "	16 024
大正 11.12	" 小 川 梅 三 郎 " 遷歴記念基金	1 682
" " 12.2	" 富 田 保 一 郎 " 記念基金	842
" " 13.4	" 石 黒 五 十 二 " " "	10 732
" " 13.7	" 近 藤 虎 五 郎 " " "	13 740
" " 14.4	" 中 島 鋭 治 " " "	4 985
" " 14.4	" 坂 田 貞 明 " " "	1 873
" " 14.9	" 岡 崎 芳 樹 " " "	2 981
昭和 6.12	" 太 田 円 三 " " "	3 935
" " 8.2	" 坂 本 雅 雄 " " "	910
" " 8.5	" 川 上 浩 二 郎 " " "	1 250
" " 10.2	" 古 市 公 威 " 土木賞牌基金	638
" " 10.7	" 来 島 良 亮 " " "	631
" " 11.4	" 中 山 秀 三 郎 " " "	628
" " 11.4	" " " 記念基金	2 516
" " 12.2	" 岡 崎 文 吉 " " "	1 578
" " 14	" 野 口 誠 " " "	1 242
" " 16	" 物 部 長 穂 " " "	743
" " 17	" 中 川 吉 造 " " "	3 716
" " 35.7	" 黒 河 内 四 郎 " " "	1 127
" " 39.4	" 藤 井 真 透 " " "	106 317
" " 39.6	" 真 田 秀 吉 " " "	
" " 39.6	" 谷 口 三 郎 工 学 士 " " "	743 671
" " 39.6	" 青 山 士 " " "	
" " 26.6	日本放送電機株式会社	5 000 000
" " 36.10	故 吉 田 徳 次 郎 博 士	23 865 925
" " 41.6	" 田 中 豊 " " "	10 462 500
	関西支部維持基金	27 696
	諸 積 立 金	1 822 901
合 計		42 160 326

8. 引当金

(昭和43年3月31日現在)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 前年度繰越額	6 065 074	1 引当金取崩額	1 434 400
1 退職手当引当金	1 091 908	1 退職手当引当金	134 400
2 減価償却引当金	3 673 166	2 減価償却引当金	0
3 名簿発行引当金	1 300 000	3 名簿発行引当金	1 300 000
2 本年度受入	7 975 191	2 次年度へ繰越金	12 605 865
1 退職手当引当金	5 000 000	1 退職手当引当金	5 957 508
2 減価償却引当金	2 975 191	2 減価償却引当金	6 648 357
合 計	14 040 265	合 計	14 040 265

橋監事よりつぎのとおり監査結果の報告があった。

監 査 報 告 書

上記、昭和42年度決算報告書(普通会計、吉田賞会計、田中賞会計、日本土木史編集会計)貸借対照表、財産目録、付属明細表を監査の結果、適正妥当と認めます。

昭和43年5月10日

監事 橋 好 茂 ⑩
監事 小 池 誉 ⑩

議案 3. 名誉会員の推挙

富樫会長よりつぎのとおり候補者の推せんがあり万場一致で承認されたので、新名誉会員の紹介ならびに推挙状が手渡された。

徳 善 義 光 君 日本工営(株)顧問
大 塩 政 治 郎 君 (株)宮地鉄工所嘱託
下 間 仲 都 君 大槻水道設計(株)顧問

◀ 報 告 評 議 員 会 の 決 議 事 項 ▶

1. 第 53 回通常総会提出議案その他：前掲省略 42.5.16 定例評議員会にて可決
2. 昭和 43 年度事業計画および予算：43.3.27 定例評議員会にて可決

昭和 43 年度事業計画

(自 昭和43年4月1日
至 昭和44年3月31日)

土木工学に関する学術・技術の水準を高めるため、各分野における調査研究を活発に行ない、学会誌・論文集の内容を向上充実し、新刊図書は、研究発表会・講演会・講習会・見学会等の行事を盛んにし、国際的な学術の交流を密にし、もって学術文化の発展に寄与する。

また、正会員および特別会員の増加につき、各地域に応じた活動を積極的に推進する。

本年度の主な事業は、つぎのとおりである。

- 1) 総 会 43.5.28 東京都
昭和 42 年度事業報告および決算報告
名誉会員の推挙
評議員会の議決事項の報告
土木学会賞および吉田研究奨励金の授与
新理事および監事の紹介
- 2) 評 議 員 会
4 月末日まで 半数改選

- 5月 定例会議
総会提出議案の審議
3月(昭和44年)定例会議
昭和44年度事業計画および予算の決定

3) 理事会

- 4月末日まで 理事および監事半数改選
毎月1回 会務決定

4) 支部長および支部幹事長会議

各1回

5) 各種委員会

1. 表彰委員会：功績賞および技術賞の受賞候補の選考をなし、論文賞、吉田賞および田中賞選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行ない、土木学会賞受賞候補を決定する。
2. 論文賞選考委員会：論文賞候補の選考を行なう。
3. 吉田賞選考委員会：吉田賞候補ならびに吉田研究奨励金被授与候補の選考を行なう。
4. 田中賞選考委員会：田中賞候補の選考を行なう。
5. 学術講演連絡委員会：年次学術講演会、夏期講習会等の企画ならびに調整を行なうほか、各委員会と連絡をとり行事の企画ならびに調整を行なう。
6. 大学土木教育委員会：大学土木教育についての調査研究を行ない、シンポジウムを開催する。
7. 高校土木教育研究委員会：高校土木教育についての調査研究を行ない実習指導書・高校土木教育白書の編集企画を行なうほか講習会を開催する。
8. 会誌編集委員会：土木学会誌 53巻4号～54巻3号の編集を行なう。
9. 論文集編集委員会：土木学会論文集 152号～163号の編集を行なうほか、投稿要綱、査読方法等を検討する。
10. 文献調査委員会：内外文献の調査、収集、整理を行ない、文献目録および抄録を作成し、土木学会誌に登載する。
11. 土木図書館運営委員会：図書、文献、資料、視聴覚教材の収集管理を行なうほか、図書館の運営に関する事項を審議する。
12. 出版企画委員会：新刊の企画ならびに既刊出版物の改訂を行ない、監修出版物の調整を行なう。
13. 土木工学叢書委員会：土木工学叢書の企画ならびに編集を行なう。
14. 土木年鑑編集委員会：土木年鑑 1969年版の編集を行なう。
15. 土木製図基準改訂委員会：土木製図基準(改訂版)のアップデートを行なう。
16. わかり易い土木講座編集委員会：わかり易い土木講座の企画ならびに編集を行なう。
17. 日本土木史編集委員会：昭和16年より昭和40年までの日本土木史の編集を行なう。
18. 土木用語委員会：土木用語集の調整ならびに監修を行なう。
19. 土木計画学研究委員会：土木計画のあるべき姿とその問題点を検討し、計画に関する調査研究を推進し、講習会、シンポジウムを開催する。
20. 海外連絡委員会：Civil Engineering in Japan 1968を編集し、海外との交流をはかる。
21. 水理委員会：水理学に関する調査研究を行なうほか、水工学夏期研修会、水理講演会を開催する。また、ユネスコの国際水文学10カ年計画に協力し、国際水理学会(I.A.H.R)

の日本開催(1969年8月31日～9月5日)に協力する。

22. 海岸工学委員会：海岸工学に関する調査研究を行なうほか、海岸工学講演会を開催し、その講演集および英文論文集(Coastal Engineering in Japan Vol. 11)を編集する。また海岸保全施設設計便覧の編集に着手する。
23. 耐震工学委員会：耐震工学に関する調査研究を行なうほか、国内、国外の連絡をはかり、国際会議、日本学術会議地震工学研究連絡委員会に協力する。また耐震指針講習会、耐震工学研究発表会を開催する。英文耐震規定の改訂を行なう。
24. 岩盤力学委員会：岩盤力学に関する調査研究を行なうほか、岩盤力学シンポジウムを開催する。また国際会議に協力する。
25. 原子力土木技術委員会：原子力土木技術に関する資料の収集を行なうほか、同位元素研究発表会、原子力総合シンポジウムの開催に協力する。
26. 衛生工学委員会：衛生工学に関する調査研究を行なうほか国際会議に協力する。また、衛生工学シンポジウムを開催する。
27. 橋梁構造委員会：橋梁構造工学に関する調査研究を行なうほか、国際橋梁構造工学協会(I.A.B.S.E)との連絡をはかる。また、橋梁シンポジウムを開催する。
28. トンネル工学委員会：トンネル工学に関する調査研究を行なうほか、各小委員会においてトンネル標準示方書改訂、シールド工法設計施工指針の制定に着手する。またトンネル工学に関するシンポジウムを開催する。
29. コンクリート委員会：コンクリートおよび鉄筋コンクリートに関する調査研究を行なうほかPC指針の改訂に着手する。また、日本コンクリート会議に協力する。
30. 予想される委託研究委員会：
 - ① コンクリート委員会関係；イ. フライアッシュ協会からの委託(継続)により、フライアッシュを混入したコンクリート中における鉄筋の錆に関する長期の調査研究を行なう。ロ. 業界からの委託(継続)により、各種PC工法設計施工指針の作成を行なう。ハ. 日本国有鉄道からの委託(継続)により、鉄筋コンクリート鉄道橋設計施工基準の作成を行なう。ニ. 日本規格協会からの委託(継続)により、JISの見直し審議を行なう。ホ. 業界からの委託(継続)により、構造用軽量骨材の試験研究を行なう。ヘ. 鋼材倶楽部からの委託(継続)により、太径異形鉄筋の試験研究を行なう。ト. 鋼材倶楽部からの委託(継続)により、異形鉄筋を用いた各種構造物の設計例の改訂を行なう。
 - ② 海岸工学委員会関係；イ. 農林省北陸農政局からの委託(継続)により、河北潟干拓河口工事に関する研究を行なう。ロ. 農林省中国四国農政局からの委託(継続)により、中海干拓事業の中海および周辺水域におよぼす水理学的影響に関する調査研究を行なう。ハ. 神奈川県からの委託(継続)により、相模川河口工事の調査研究を行なう。
 - ③ 耐震工学委員会関係；日本国有鉄道からの委託(継続)により、軟弱地盤における橋梁下部構造の耐震設計に関する調査研究を行なう。
 - ④ 空港舗装研究委員会関係；新東京国際空港公団からの委託(継続)により、舗装に関する技術的検討を行なう。
 - ⑤ トンネル工学委員会関係；鋼材倶楽部からの委託(継続)により、スチールセグメントについての調査研究を

行なう。

⑥ 橋梁構造委員会関係；日本国有鉄道からの委託(継続)により、鋼鉄道橋設計施工基準の作成を行なう。

6) 行 事

- 4月 第5回理工学における同位元素研究発表会 (共催) (東京都)
- 6月 大学土木教育に関するシンポジウム (東京都)
第4回トンネル工学に関するシンポジウム (東京都)
- 第6回接着研究発表会 (共催) (東京都)
- 7月 第7回原子力総合シンポジウム (共催) (東京都)
長大吊橋の耐震設計に関する講習会 (東京都)
- 7~8月 土木計画学の手法について講習会 (大阪市・東京都)
- 7~8月 第5回水工学に関する夏期研修会 (福岡市)
- 8月 夏期講習会 (東京都)
第5回岩盤力学シンポジウム (東京都)
高校土木教育に関する講習会 (共催) (京都市)
- 9月 第12回材料研究連合講演会 (共催) (京都市)
- 10月 土木学会昭和43年度全国大会 (名古屋市)
第10回地震工学研究発表会 (東京都)
第5回衛生工学シンポジウム (東京都)
- 11月 秋のエキスカッション (場所未定)
第18回応用力学連合講演会 (共催) (東京都)
第3回国土開発映画コンクール発表会 (東京都)
第15回橋梁シンポジウム (共催) (東京都)
- 12月 第15回海岸工学講演会 (福岡市)
- 44年3月 第13回水理講演会 (東京都)

その他、随時講演会、シンポジウム、講習会、見学会、映画会等を開催する。各支部においても、講演会、シンポジウム、講習会、見学会、映画会、学生のための催し等を定期または随時開催する。

昭和43年度予算

(自昭和43年4月1日
至昭和44年3月31日)

1. 普通会計

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 会 費	61 620 000	1 会誌発行費	32 040 000
1 正 会 員	38 600 000	2 論文集発行費	5 605 000
2 学 生 会 員	4 050 000	3 名簿発行費	1 800 000
3 特 別 会 員	18 970 000	4 行 事 費	7 045 000
2 論 文 集 代	3 790 000	5 調 査 研 究 費	6 500 000
3 広 告 取 入	19 000 000	6 土 木 学 会 賞 費	597 000
4 行 事 取 入	6 285 000	7 支 部 交 付 金	8 560 000
5 図 書 館 使 用 料	1 174 000	8 図 書 整 備 費	1 000 000
6 取 入 利 子	2 150 000	9 一 般 管 理 費	30 982 000
7 雑 取 入	120 000	1 事 務 費	23 810 000
		2 借 地 料	636 000
		3 会 費 徴 収 費	1 059 000
		4 会 議 費	2 179 000
		5 減 価 償 却 積 立 金	945 000
		6 退 職 給 与 積 立 金	1 890 000
		7 そ の 他	463 000
		10 予 備 費	10 000
合 計	94 139 000	合 計	94 139 000

2. 出版会計

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 売 上 高	39 033 000	1 売 上 原 価	18 934 000
1 刊 行 物 売 上 高	36 993 000	1 期 首 棚 卸 高	10 580 000
2 広 告 取 入	1 240 000	2 当 期 製 造 原 価	19 319 000
3 印 税 ・ 監 修 料 取 入	800 000	3 荷 造 発 送 費	500 000
		4 期 末 棚 卸 高	△11 465 000
		2 一 般 管 理 費	16 507 000
		1 事 務 費	12 444 000
		2 借 地 料	333 000
		3 振 替 払 込 手 数 料	546 000
		4 会 議 費	1 123 000
		5 減 価 償 却 費	495 000
		6 退 職 給 与 引 当 金	990 000
		7 委 員 会 経 費	200 000
		8 そ の 他	376 000
		3 差 引 剩 余 金	3 592 000
合 計	39 033 000	合 計	39 033 000

3. 委託研究

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 43年度受入高	12 800 000	1 研 究 費	13 689 000
2 前年度より繰越金	4 611 000	2 一 般 管 理 費	1 521 000
		3 次 年 度 へ 繰 越 金	2 201 000
合 計	17 411 000	合 計	17 411 000

4. 吉田博士記念事業会計

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 東京電力株配当金	2 160 000	1 賞 金	100 000
2 貸付信託預金利子	353 000	2 奨 励 金	1 300 000
3 銀行預金利子	38 000	3 賞 牌	5 000
4 東京電力株売却利益金	1 548 000	4 受 賞 者 旅 費	130 000
5 前年度より繰越金	1 740 000	5 委 員 会 費	180 000
		6 論 文 審 査 費	110 000
		7 事 務 費	50 000
		8 雑 費	5 000
		9 東 京 電 力 株 増 資 払 込	1 548 000
		10 次 年 度 へ 繰 越 金	2 411 000
合 計	5 839 000	合 計	5 839 000

5. 田中博士記念事業会計

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
鉄道建設債券利子	375 000	1 賞 牌	38 000
2 貸付信託預金利子	400 000	2 受 賞 者 旅 費	100 000
3 銀行預金利子	18 000	3 論 文 審 査 料	80 000
4 前年度より繰越金	1 139 000	4 委 員 会 費	50 000
		5 事 務 費	25 000
		6 次 年 度 へ 繰 越 金	1 639 000
合 計	1 932 000	合 計	1 932 000

6. 日本土木史編集集計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 収入利子	100 000	1 委員会費	195 000
2 前年度より繰越金	4 068 000	2 資料収集費	100 000
		3 編集諸費	2 730 000
		4 次年度へ繰越金	1 143 000
合計	4 168 000	合計	4 168 000

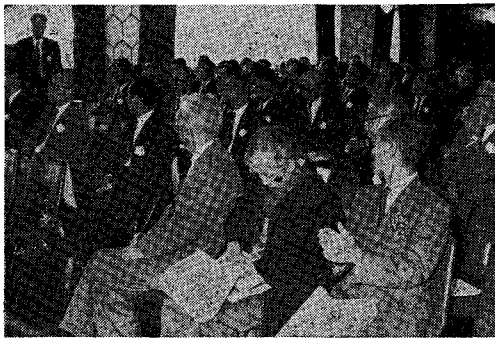
◀表彰▶

表彰委員会の富樫委員長より別掲(70~71 ページ)のような功績賞ならびに技術賞の授賞経過および理由の説明があり、続いて論文賞の授賞経過および理由を岡本論文賞選考委員会委員長、吉田賞の授賞経過および理由を篠原吉田賞選考委員会委員長、また第2回目の田中賞の授賞経過および理由を福田田中賞選考委員会委員長よりそれぞれ説明があり、功績賞の草間名誉会員(87才)をはじめとして、つぎのとおり表彰が行なわれた。また吉田研究奨金の授与が行なわれた。

1. 土木学会賞の授与

功績賞：草間 偉君
沼田 政矩君

受賞式における沼田、草間夫人、草間氏(右より)



技術賞：首都高速道路の建設(羽田線・目黒線・渋谷線・代々木線・環状線) 首都高速道路公団

論文賞：

(1) 論文賞

○交通施設整備の地域経済効果に関する研究
(運輸と経済 第27巻11号 41年11月)
(" 第27巻12号 41年12月)
(著者名：天野 光三・藤田 昌久)
天野 光三君

(2) 論文奨励賞

○入江内における冷却水取・放水の研究(総合題目)
(第13回海岸工学講演会講演集 41年12月)
(第14回 " 42年10月)
(電力中央研究所技術研究所報告
" No. 65084 41年2月)
" No. 66033 41年8月)
" No. 67007 42年4月)
" No. 67072 42年12月)
(著者名：和田 明・片野 尚)

和田 明君

○直柱に働く衝撃破波力の研究
○有限振幅重複波ならびにその波圧に関する研究
(港湾技術研究所報告 第5巻6号 41年4月)
(" 第5巻10号 41年6月)
(著者名：合田 良実・原中 祐人・北畑正記・柿崎 秀作)

合田 良実君

吉田賞：高張力異形鉄筋の使用に関する基礎研究
(コンクリート・ジャーナル 第4巻2号 41年2月)
(" 第4巻6号 41年6月)
岡村 甫君

田中賞：

(1) 論文部門

○Response of Suspension Bridges to Moving Vehicles
東京大学工学部紀要 第29巻1号 42年3月
(著者名：平井 敦・伊藤 学)
伊藤 学君

(2) 作品部門

○名護屋大橋
○福島高架橋(阪神高速道路・大阪池田線)

2. 吉田研究奨励金の授与

○Finite Element法のコンクリート構造への適用に関する研究
吉竹 孝之君
○異形鉄筋を用いた鉄筋コンクリートのひびわれに関する研究
外門 正直君・大塚 浩司君
○碎石を用いたかた練りコンクリートの振動締固めに関する研究
河野 清君
○部材のプレキャストブロック化による構造物の急速施工法の研究
村上 温君・森口 幸雄君

◀新任理事および監事の紹介▶

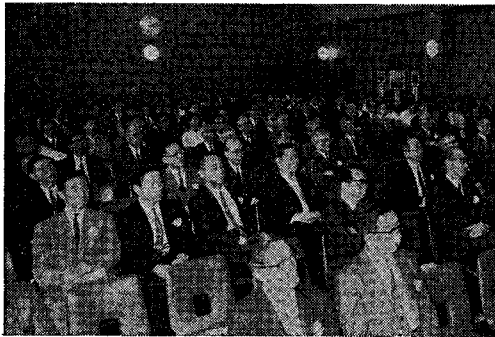
富樫会長よりつぎのとおり43年度新役員の紹介があった。

新任	留任	職名
会長 石原藤次郎君		京都大学教授
副会長 尾之内由紀夫君		建設省建設事務次官
国分 正胤君		東京大学教授
	仁杉 巖君	日本国有鉄道顧問
	松見 三郎君	中日本建設コンサルタンツ(株)副社長
専務理事 羽田 巖君		
理事 安藤 道夫君		三井建設(株)専務取締役
	井田 至春君	建設省東北地方建設局企画室長
	伊藤 富雄君	大阪大学教授
	石井 興良君	東京都首都整備局長
	石橋 多聞君	東京大学教授
	市原 松平君	名古屋大学教授
	岩崎 敏夫君	東北大学教授
小川 博三君		北海道大学教授
大久保喜市君		運輸省港湾局機材課長

- 大地 羊三君 川崎偉志夫君 川崎 敏視君 倉田 宗章君 倉橋 力雄君 篠原 謹爾君 高石 康君 高橋国一郎君 高橋 浩二君 野口勇二郎君 比留間 豊君 土方 大弐君 福山真三郎君 村田 清逸君 渡辺 豊君 監事 大橋 健一君 小池 誉君
- 法政大学教授
日本道路公団福岡支社長
日本鉄道建設公団計画部長
大阪市立大学教授
北海道開発庁地政課長
九州大学教授
電源開発(株)土木試験所長
建設省道路局国道第一課長
日本国有鉄道建設局計画課長
阪神高速道路公団工務部長
日本道路公団企画調査部長
近畿日本鉄道(株)名古屋営業局長
大阪市総合計画局長
中国電力(株)島根原子力建設準備本部長
建設省九州地方建設局長
中部電力(株)取締役
西松建設(株)常務取締役

以上をもって議事を終了し、富樫会長の謝辞があり、続いてつぎの2題の特別講演があり聴講者250名を数える盛況であった(講演内容別掲)。

15.00~16.00 わが国の高速道路(映画「みんなの高速道路」を併映)
土木学会会長 富樫 凱一
講演会会場



16.00~17.00 経済の動向と公共投資
日本経済センター理事長 大来 佐武郎

◀懇親会▶

総会、講演会を終了後17時より私学会館7階の宴会場において立食式の懇親パーティーが開かれた。富樫会長、石原新会長の挨拶ののち、菊池名誉会員(84才)が乾盃の音頭をとり宴に入る。会場がやや狭目のため130名近くの参加者をかかえて正に立錫の余地なき状況で、ついで挨拶に立った水野九大学長の声も聞きとれないほどの盛会で、なごやかな歓談のうち18時頃散会した。

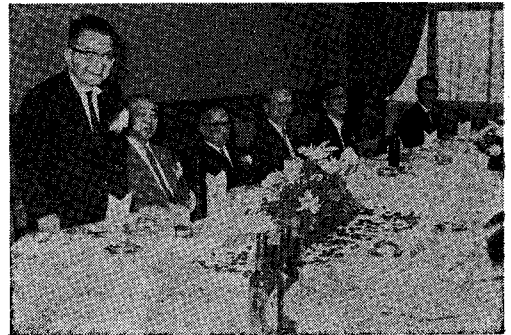
懇親会会場



◀受賞者祝賀会▶

総会関係行事が終了した18時より恒例の会長招待による受賞者祝賀会が私学会館4階で行なわれた。この祝賀会には功績賞受賞者の草間氏を除く全員が出席し、羽田専務理事司会のもとに、夫人を混じえてなごやかな懇談が行なわれた。

受賞祝賀会(左より石原(新)、富樫の両会長、福田、篠原、酒井、園分の各氏)



岡村氏 岡村夫人 伊藤夫人 伊藤氏 和田氏 和田夫人 和田氏 天野氏 沼田氏 有江氏

受賞者一同祝賀会にて

